



ロボット手術による先端医療と患者の希望をかなえる治療を両立

2019年4月に開院した東京国際大堀病院は手術支援ロボット「ダヴィンチ」による治療と患者の生活の質を重視した医療提供をめざす。

vol.26

病院新時代



ダヴィンチによる手術では執刀医がサージョンコンソールで鉗子と内視鏡を操作(写真左)、大堀理 理事長・院長がモニターで確認しながら進めていく

東京国際大堀病院の新たな視点

- 最新機器と高度な技術による先端医療
- 小規模を活かした患者の希望をかなえる治療
- 症例見学施設として医師を育成

1 ナースステーションで笑顔を見せる看護師。医師、看護師、MSWが参加する毎朝の申し送りなどスタッフ間の連携のよさが自慢だ 2 「清潔感」「ロボット」をコンセプトにした同院。受付も洗練されている 3 検査室は最新の検査機器を揃え、種々の検査を迅速に行う 4 医療機器は64列CTのほか体外衝撃波結石破碎装置などを導入 5 患者が自由に利用できるデイルーム 6 「患者さんが笑顔で『当院に来てよかった』と退院していく姿をみるとうれいしです」と語る大堀理 理事長・院長

医療法人社団 實理会

東京国際大堀病院

(東京都三鷹市)



医療法人社団 實理会
東京国際大堀病院
住所：〒181-0013
東京都三鷹市下連雀4-8-40
病床数：35床
URL: <https://ohori-hosp.jp/>

と力を込める。

4月からは週5日手術ができる体制を整えた。大堀理事長は、「ロボット手術は年間300例以上が目標です。手術はやはり人、経験が大事。スタッフの笑顔が絶えない、患者さんが院内にあふれるアクティブな病院にしたいですね」

基本理念である「世界トップレベルの先端医療の提供」に加えて、患者の生活の質を重視した最善な治療に注力する。「忙しさや医療費など環境の違いからくることで、米国の医師は患者さんに向き合って診察、治療の説明をしています。大病院では難しかったことですが、小さな病院のよさを活かして患者さんやご家族の希望を聞き、かなえたいと考えています」と大堀理事長は話す。

ロボット手術は前立腺全摘のほか腎部分切除術も実施、今後は膀胱全摘術を行う計画だ。4月からは、日本初の婦人科領域でロボット手術を施行した井坂恵一医師をロボット手術センター長として招へいし、婦人科の保険診療を開始した。また、東京都内で3カ所しかない、ダヴィンチを用いたトレーニング症例見学施設として19年12月に認定され、泌尿器科医を受け入れている。

武蔵野病院の病床を引き継ぐ形でオープンした東京国際大堀病院は1年にして多くの低侵襲治療を手掛けている。ダヴィンチによる手術は年間130件、7人の泌尿器科専門医が全員、ロボット手術を行える高い技術を持つ。

大堀理 理事長・院長は前立腺がん治療のスペシャリストとして知られており、米国留学後に日本でロボット手術を普及させ、東京医科大学教授として同大学ロボット手術支援センター長を務めた。「前立腺がんを専門としてきて30年。後半の15年間はたくさんさんのロボット手術を行ってきましたが、多くの患者さんに貢献できる手術を続けたいのと、自分のスキルを若い医師に伝えたいと思い、新しく病院をつくりました」と説明する。

撮影=下山展弘